

新規就農の取り組みについて

県内外からの新規就農者の確保を積極的に進めていくため、相双地域12市町村2JAとともに当所が事務局となって組織した「相双地域新規就農・企業参入推進検討会議」において、これまでに実施した活動を紹介します。

【就農相談会への出展】

就農希望者を対象とした相談会に、「相双地域新規就農・企業参入推進検討会議」の構成メンバーである相双地域の市町村及びJAの職員から当地域の紹介や、就農に向けた支援策を説明するなど、6～10月まで6回出展し、参加者の就農動機などを伺って、当地域での農業体験への参加を誘導しました。

新型コロナウイルス感染防止対策のため、オンライン形式での出展となった回もあり、画面越しでの応対となりましたが、ゆっくり丁寧に説明するなど、相談者の理解が進むよう努めました。



オンラインで実施された画面越しの
就農相談会

【農業法人での体験受入れ】

就農希望者が、就農前に実作業や営農状況、当地域の実情を学ぶための機会として、短期体験を募集し、これまで延べ12人の参加がありました。

参加者は、20～30代の学生や社会人の方々であり、皆さん将来の選択肢として就農を考えていました。



体験者からは、「今回、お世話になった農家さんが楽しそうに仕事をする姿を見て、改めて相双地方の農業に魅力を感じました。栽培技術など、体験してみなければわからなかったことも多く、どんな農業をやりたいのか、自分自身と向き合うことができたように思います。」と、相双地域での就農意欲の向上につながることができました。

南相馬市の法人でブロッコリー定植の
作業を実施してもらいました。

新規就農者確保に向けた活動の紹介

オンライン就農イベントを開催しました!

令和3年8月7日(土)に、新規就農者確保に向けた取組として、オンライン就農イベント「WEB就農座談会【福島県相双地域特集】」を開催しました。

当日は、南相馬市の大規模農業法人である(有)高ライスセンターと(有)I Loveファームおだか、浪江町のNPO法人Jinの社屋やほ場をWEBで繋いで、県内外から参加した8名の方々とライブ感あふれる交流を行いました。

参加者からは「リアルタイムで会社やほ場の様子を知ることができ、現地の気候や作業内容を具体的にイメージしやすかった」といった、ライブ配信ならではの感想を多数いただきました。



青空の下でのほ場中継



盛り上がった参加者との交流

フレッシュ農業ガイド講座を開催しました!!

相馬地方の農業の取組を知ってもらうために、福島県立相馬農業高校生産環境科2年生を対象にフレッシュ農業ガイド講座を開催し、今回は南相馬市内にある株式会社相馬牧場(小高区)、株式会社大地のめぐみ(小高区)、ごろくファーム株式会社(原町区)の3法人を見学しました。

相馬牧場では、代表の相馬秀一氏より震災前の酪農経営から、震災後、牧草やデントコーン等の飼料生産とめん羊飼育に切り替えた経緯についてお話を伺いました。

その後、飼育しているめん羊や飼料生産で使用している作業機械を見学しました。特に、日本でも数台しかない大型のハーベスターでは、実際に運転席に座らせてもらい、生徒の皆さんの貴重な体験となりました。

最後に相馬氏より「1次産業があって他の産業が成り立っている。米を作る人がいなければコンビニのお弁当やパック詰めご飯は作れない」と農業の魅力を熱く語っていただきました。

視察後に実施したアンケートでは「もっともっと農業のことを知って、知識を積み重ねていきたいと思った。」という意見や、「どの法人の農業も魅力的で、良さが伝わってきた。また、新たなに担い手に対する期待を感じた。」と感じる生徒もおり、就農した際のイメージづくりの一助となる講座となりました。



大型ハーベスターの運転席に座り興奮気味の生徒達

新規就農者確保に向けた活動の紹介

農業短大生による相双視察ツアー

農業総合センター農業短期大学の学生に対して、相双地方での就農への理解醸成、農業法人等への雇用機会の創出を図り、ひいては双方のマッチングに資することを目的に、視察ツアーを開催し、学生 47 名が参加しました。

5 コース（果樹、作物、野菜、花き、畜産）を設定し、各生産者から直接現場で話を聞いて、経営の実情や特色ある栽培体系などを勉強していただきました。

学生から、「どの地域でも農業者不足はあるものの、視察した会社はそれを言い訳にせず、少ないなりにどうしていけばいいのか考えていて、自分もその考えを大事にしたいと思いました。」と、今回学んだ内容を自分のものにしようとする姿勢が見受けられました。



【果樹コース】

日本ナシのジョイントV字トレリス栽培を初めて見て、植え付けてから収穫するまでの期間の短さや作業姿勢などを実感してもらいました。



【作物コース】

ガイダンス機能付きトラクターのコクピットに触れて、スマート農機を実感してもらいました。



【野菜コース】

露地栽培、施設栽培、それぞれのメリットデメリットなど説明を受け、実際に営農する際の参考にしてもらいました。

～あぶくまもちの推進～

飯舘村で、福島県オリジナルもち米品種の「あぶくまもち」を試験栽培し、収穫したコメで試食会を行いました。

あぶくまもちは、冷害に強く穂発芽もしにくいことから、県が中山間地域向けに開発した品種で、平成21年に品種登録し、平成22年まで飯舘村で栽培されていました。途中、東日本大震災による休止を経て11年ぶりに村内の水田16aで作付けされ、870kgの収穫がありました。

食味は、おこわにすると柔らかくて粘りもある食感です。また、餅にした時の餅化及び硬化時間が早いことから操作性に優れていると、加工者からは評価をいただきました。

今後は村内加工者と連携して加工適性を検証しながら、本格栽培に向けた支援を実施してまいります。



五目おこわ、柔らかくて粘りもある



稲刈りする関係者

転作大豆の本作化で農業経営を見直しませんか？

令和3年産の米価下落に伴い、主食用米から大豆への転換のご提案です。

大豆は、畑作物の直接支払交付金や水田活用の直接支払交付金等の各種助成金を活用することで、十分な所得を確保することができます。相双地域の作付面積は約400haあり、単収も県内トップクラスで、栽培適地であることから高い収益性が見込まれます。転作大豆をきっかけとし、水稲単作経営から複合経営へステップアップを目指しましょう。

